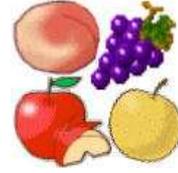




# 平成23年度 果樹情報 第9号

(平成23年8月4日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (7月4～6半旬：果樹研究所)

平均気温は4半旬が26.1℃で平年より2.5℃高く、5半旬が20.3℃で平年より4.1℃低く、6半旬が23.2℃で平年より2.2℃低く経過しました。この期間の降水量は138.5mmで平年の220%でした。

## 2 土壌の乾燥状態 (果樹研究所)

7月31日現在の土壌水分(草生栽培リンゴほ場：無かん水)は、深さ20cmがpF1.9、深さ40cmがpF1.5、深さ60cmがpF1.6で過湿傾向となっています。

## 3 生育概況 (8月1日現在：果樹研究所)

表 主要品種の果実肥大(暦日比較 果樹研究所8月1日調査)

果実肥大	モモ				ナシ				リンゴ			
	あかつき		ゆうぞら		幸水		豊水		つがる		ふじ	
	縦径	側径	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	65.2	72.2	52.7	49.6	53.6	66.7	56.5	63.5	68.8	77.3	60.7	68.6
平年比(%)	99	98	94	90	101	103	107	108	105	103	102	106

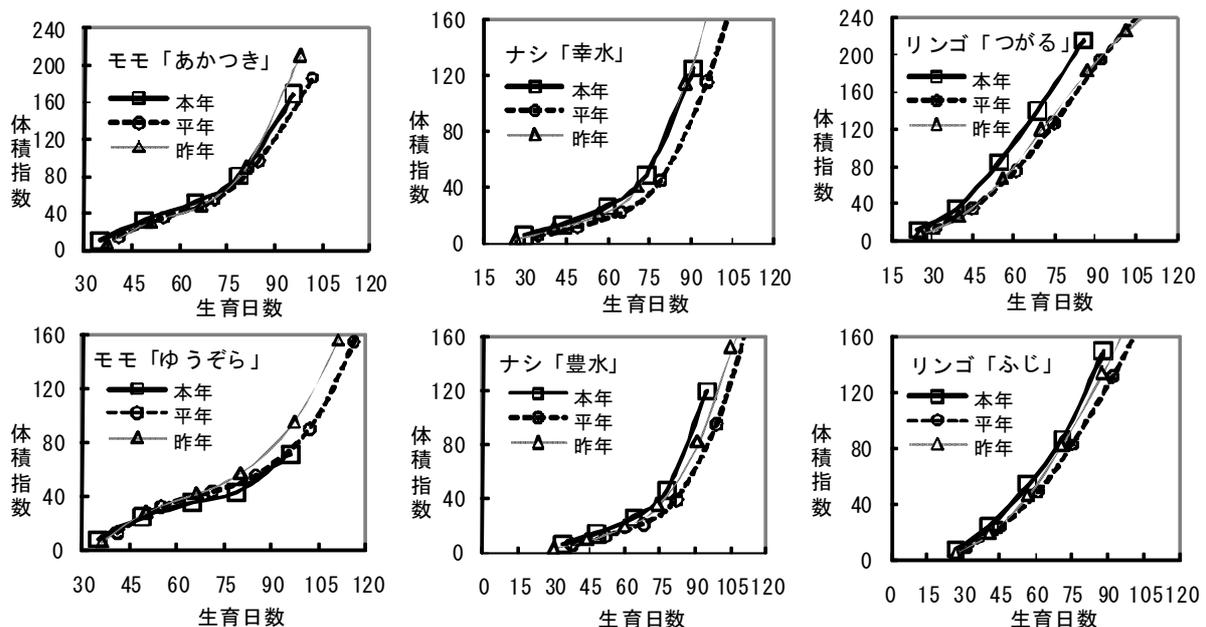


図 主要品種の果実肥大(果実の生育日数比較 果樹研究所8月1日調査)

### (1) モモ

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が平年比99%、側径が平年比98%で平年並み、「ゆうぞら」は縦径が平年比94%、側径が平年比90%と平年より小さい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年より小さい状況となっています。

「あかつき」の新梢生長(満開後90日)は、長さが平年比58%と短く、新梢停止は平年より早い状況となっています。

「日川白鳳」の収穫始めは7月15日で平年より2日早く、収穫盛りは7月22日で平年より

2日遅れました。果実の大きさは227gで平年並み、糖度は10.9で平年並みでした。「暁星」の収穫始めは7月29日で平年より6日遅れました。

農業総合センター果樹研究所によると、「あかつき」の収穫開始は8月5日頃で、平年より3日程度遅いと予測されています。

## (2) ナシ

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が平年比101%、横径が平年比103%で平年並み、「豊水」は縦径が平年比107%、横径が平年比108%と平年より大きい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

「幸水」の新梢生長（予備枝：満開後80日）は、長さが平年比118%と長く、葉数は平年比110%と多い状況です。

「幸水」の裂果発生率は3.3%で、平年（4.3%）より少ない状況でした。

農業総合センター果樹研究所によると、「幸水」の収穫盛期は9月3日頃で、平年より1日遅いと予測されています。

## (3) リンゴ

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が平年比105%、横径が平年比103%、「ふじ」は縦径が平年比102%、横径が平年比106%と両品種ともに平年よりやや大きい状況です。また、果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年よりやや大きい状況です。

「つがる」の果実成熟（満開後81日）は、果実の生育日数で平年と比較すると、硬度およびリンゴ酸は平年並み、糖度はやや高く、デンプンの抜けはやや進んでいます。

## (4) ブドウ

「巨峰」の着色開始期は、有核栽培では7月22日（昨年7月22日）、無核栽培では7月26日（昨年7月22日）となっています。

## 4 栽培管理上の留意点

### (1) 樹種共通の管理

#### ア 排水対策

滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょう。

#### イ 樹勢回復対策

樹勢の低下が認められる園では、樹勢に応じた着果量として樹勢の回復を図るとともに、窒素成分を含む葉面散布肥料を散布しましょう。

### (2) モモ

#### ア 中生品種の収穫

7月下旬からの低温の影響により果肉先行型の成熟となる可能性があります。特に、核割れ果や胚に障害を受けている果実は成熟が早まりやすい傾向があるため、果肉の軟化に注意し収穫が遅れないようにしましょう。

#### イ 晩生品種の収穫前管理

果実肥大が盛んな時期に入るので、適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置などを計画的に実施しましょう。

### (3) ナシ

#### ア 修正摘果

「幸水」は裂果期が終了後、早急に修正摘果を実施しましょう。修正摘果では、裂果した果実、変形程度の著しい果実、果点コルク間の地色が白い果実（肥大が停滞しやすい）及び収穫開始25日前（満開後100日頃）の横径が60mm未満の小さな果実を中心に摘果してください。

「豊水」は満開後100日頃を目安に小玉果と変形果を摘果しましょう。

#### (4) リンゴ

##### ア 落果防止剤の散布（早生品種）

落果防止剤は各品種の生育に合わせ、遅れないように散布しましょう。なお、農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）には十分注意してください。

##### イ 早生種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から摘葉を実施します。気温の高い日が続く場合は日焼け果の発生が懸念されるため、果そう葉と新梢葉の2回に分けて実施しましょう。

##### ウ 修正摘果

中晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を実施しましょう。

#### (5) ブドウ

##### ア 生理障害対策

土壌水分の急激な変化は縮果病の発生を助長します。梅雨明け後は気温が上昇するとともに、土壌表面や葉からの蒸散が多くなり乾燥しやすいので、こまめにかん水を行いましょう。

##### イ 摘心（長梢せん定栽培）

8月上旬になっても伸長が続いている強い新梢は、20～25葉程度を目安にそれより先を摘心します。摘心を実施しても棚下が暗い場合は、必要最小限の新梢の間引きと、副梢の摘心を行いましょう。

### 5 病害虫防除上の留意点

#### (1) 病 害

##### ア リンゴ斑点落葉病、輪紋病、炭疽病

今後、降雨があると斑点落葉病の発生が増加し、輪紋病の果実感染も続くため、8月上旬の防除を徹底しましょう。炭そ病の発生が多い園では、被害果実を摘除し適正に処分するとともに、薬剤による防除を徹底し二次感染を防止しましょう。

##### イ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

今後も多雨条件が続くような場合、中生品種では、収穫期間中も灰星病防除剤を散布しましょう。なお、農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）には十分注意してください。晩生品種では灰星病およびホモプシス腐敗病の重点防除期となるので、散布間隔に注意して防除を徹底しましょう。

##### ウ ナシ黒星病

今後も低温多雨条件が続くと発生の拡大に注意が必要です。散布間隔に注意して防除を徹底しましょう。なお、農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）には十分注意してください。

#### (2) 虫 害

##### ア モモノゴマダラノメイガ

発生が多い地域では、モモの中晩生品種に対して8月中～下旬の防除を徹底しましょう。発生が続く場合は、その10日後にも防除を実施します。なお、農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）には十分注意してください。

##### イ モモハモグリガ

第4世代幼虫の防除適期は平年並の8月1半旬頃、第5世代幼虫の防除適期は8月4半旬頃と予想されますので、防除を徹底しましょう。

##### ウ ナシヒメシンクイ

第3世代幼虫の防除適期は、8月4半旬頃と予想されます。本種の第3世代以降はナシ果実への寄生が増加すると考えられます。例年、果実被害が多いナシ園や、新梢の芯折れ症状が多く見られるモモ園では、第3世代以降の防除を徹底しましょう。

##### エ カメムシ類

山間及び山沿いの果樹園はカメムシ類の被害を受けやすいので、飛来が多く見られる場合

は速やかに防除を行きましょう。

オ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシの第2世代幼虫の防除適期は8月上～中旬頃、クワコナカイガラムシの第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃と予想されますので、発生が見られる場合は防除を徹底しましょう。

カ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉に雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行きましょう。

### **病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。